

シグマ委員会核データ専門部会
評価用データベースWG 2年度第1回会合議事録

日時 1990年6月21日(木) 13:30 ~ 17:30
場所 日本原子力研究所 東海研究所 研究2棟222号室
出席者 岩崎(東北大)、大沢(近大)、肥田(東芝)、五十嵐、浅見(NEDAC)、
菊池、杉本、成田、中川(原研)

配布資料

1. DBE-90-5 前回議事録(1990-02-01)
2. DBE-90-6 NUDATの資料(中川)
3. DBE-90-7 測定データの誤差の原因(杉本)
4. DBE-90-8 評価用データベースのフォーマット(中川)
5. DBE-90-9 JENDL-3 評価計算パラメータデータベース(浅見)
6. DBE-90-10 JOBSETTER(中川)
7. DBE-90-11 評価用データベースSWG元年度作業報告

議事

1. 前回議事録確認

前回(1990-2-1)の議事録(DBE-90-5)を確認した。

2. NUDATについて

中川氏が、BNLで作成された原子核データの情報システムNUDATの資料(DBE-90-6)を説明した。しかし、この資料では、NUDATの具体的な点がわからないので、深堀氏に頼んで、次回に説明してもらうことにした。その時は、さらにENSDFについても説明をお願いします。

3. Fe全断面積の共分散

杉本氏が、飯島氏と同じFe全断面積の測定値を用いて、SUR法、SURP法及び一般化最小自乗法等での誤差解析の結果(DBE-90-7)を報告した。今回は、途中で逆マトリックスが計算できなくなり、SUR法の結果しか出せなかった。次回までに、一般化最小自乗法でやり直してみることにした。

4. 評価用データベースのフォーマット

中川氏が、配布資料 DBE-90-8 により、理論計算パラメータを収録するためのフォーマットについて説明した。現在、JENDL-3の評価計算パラメータ収集をこのフォーマットで行っている。フォーマットに問題点があれば、中川氏まで連絡することとした。

5. JENDL-3評価計算パラメータの収集作業

資料 DBE-90-9 により、パラメータ収集の現状を浅見氏が報告した。既に約95%の作業を終了している。レベルスキームと計算コードの内蔵値は収集しなかった。

これに対して、レベルスキームと内蔵値も収集すべきとの意見が強く出された。

6. JOBSETTERの紹介

中川氏が資料 DBE-90-10 を使って、CASTHYのJCLと入力データを作成するコードJOBSETTERを紹介した。このコードは、FP核データ評価のために、作成したコードで、計算パラメータファイルからOMP等のパラメータを読み込んで使用する等、これから作成しようとしている評価システムと共通点がある。

7. 今後の予定

1) 誤差ファイルの検討

- 担当：杉本、飯島、(千葉)
- 目標：Feを例にして、誤差ファイルの作成法を検討し、手法を確立し、マニュアルを作成する。
- 今年度の作業：国際協力の分担分(多分、全断面積、非弾性散乱断面積、捕獲断面積)の誤差ファイルを作成する。

2) 評価計算用パラメータデータベース作成

- 担当：浅見、成田、中川
- 今年度の作業：
 - ・レベルスキーム、計算コードの内蔵値を収集する。
 - ・JENDL-3評価計算パラメータのJAERI-Mレポートを作成する。
 - ・global パラメータを収集する。
 - ・REPSTORファイルをまとめる。

なお、将来は、本格的なデータベースに格納すべきとの意見が出された。

3) 統合核データ評価システムの構築

- 担当：肥田、岩崎、大沢、五十嵐、菊池、中川
- 今年度の作業：
 - ・評価作業の流れ図の解析とコード及び必要なデータの洗いだし
とりあえず、分離共鳴は含めず、上限は20MeVとする。次の通り分担し、次回に結果を報告する事にした。

中重核	肥田
FP	中川
重核	大沢

- ・上の結果をもとに、省力化のための計算コードのモジュールシステムを作成する。

AI化は、次年度以降の目標とする。またそのために必要な知識ベース作成の具体的な例について、次回、岩崎氏に説明してもらうことにした。

8. その他

- 浅見氏および千葉氏にWGに入ってもらったことにした。
- 次回は、10月12日（金）東海で開く。